

◇広島セミナーを開催しました

3月23日(木) 広島 YMCA 国際文化センターにおいて、「省エネ義務化と工務店の歩む道」をテーマにしたセミナーを、(株)日本住宅新聞社主催、樹脂サッシ工業会ならびに弊協会の協賛で開催しました。広島地区は、北部は東北地区に匹敵する寒冷な気候であり、南部は夏には暑い気候ということで高断熱性能住宅への関心が高く、55名の参加をいただき、盛況のうちに終了いたしました。

COP21/パリ協定発効を踏まえた「日本の約束草案」では、2030年度のCO2排出量を2013年度比26%減の水準とすることが謳われていますが、家庭部門ではさらに厳しく39%の削減目標となっています。この目標達成に向け、2020年までに①省エネ基準の義務化、②新築公共建築でZEB^{注1}実現、③標準的な新築建築でZEH^{注2}実現、というロードマップが発表されています。一方で、健康面からも高断熱性能の住宅に対する要求は高まっています。今回参加された方の6割強が戸建て住宅を設計・施工する工務店関係者、1割強がリフォーム専門工務店関係者であり、高断熱性能住宅に対する樹脂窓の役割の重要性を再認識していただく、良い機会になりました。



以下、概要をご紹介します。

建築研究所の坂本理事長からは、まず熊本県益城町の地震と糸魚川の大火の衝撃的な被害の中で高性能住宅の被害程度の低さを、続いて、高断熱性能住宅を建築するためのガイドブックと断熱性能を計算するソフトが、中小工務店でも使いやすい形で建築研究所から提供されていることを紹介していただきました。省エネ基準達成には、使用する空調や給湯設備もエネルギー効率の高いものが必要で、これらにより補助金等の優遇処置を受けることができます。また表彰制度として「ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー」があり、この受賞者は大手ハウスメーカーではなく地方工務店が多いという、参加者を勇気づける話もありました。

九州大学の住吉准教授からは、まず、あと80年ほどで日本の人口が5千万人以下、高齢化率が4割を超えるというなかで、エネルギー自給率を高めていかなければならないが、エネルギー消費の3割を民生部門が占め、中でも暖房や給湯が占める割合が大きいことを紹介いただきました。続いて、室温で表せない体感温度の指標としてPMVがあり、これを適切に維持することを目標に、住宅と空調や給湯設備の省エネ設計を行う必要があること、などのご講演を頂きました。また、エレベーター周辺の見える位置に階段を配置すると、階段を利用する人が増えて省エネになるということ为例に、使用者の心理面を利用した省エネ設計についてもご講演いただきました。

パネルディスカッションは、日本住宅新聞社の茂泉社長をコーディネーターとして、「今後の省エネ性能を高める住宅づくりにむけて、工務店はどう取り組むべきか」をテーマに、パネラーとして坂本先生、住吉先生に、樹脂窓メーカーの YKKAP、エクセルシャノンが加わって、活発に意見交換が行われました。大手ハウスメーカーに地元工務店が対抗していくには、規格化された住宅よりも性能が良く安価に提供できる工夫をする。展示会などで ZEH を体験する機会をつくり、施主に実感してもらう。ZEH は当然のこととして、むく板の天井にするなど、工務店ならではの差別化を図る。などの意見がでました。一方で 2030 年には ZEH は当たり前のことになり「売り」ではなくなっているという指摘もありました。最後に「工務店が生き残るためには、高断熱住宅を理解し、法律改正や補助金の情報・高性能の新建材情報を収集して、研究を続ける必要がある」とまとめられました。

最後になりましたが、年度末のご多忙の中、ご参加を頂きました皆様に感謝申し上げます。

注1 ZEB（ネットゼロエネルギービルディング）

注2 ZEH（ネットゼロエネルギーハウス）